

わんちゃん、ねこちゃんの健康について、獣医さんから専門的にお話しいたします!

わんにゃの健康最前線

「花粉症の時期に耳より?な話」



京都中央動物病院
院長 獣医師
むらた ひろし
村田 裕史 先生

ようやく冬が終わり暖かい春がやってきました。いよいよ散歩や外で遊ぶのが楽しくなる季節です。しかし、国民的な現代病とも言える花粉症の季節の到来で鼻や目がかゆいし、クシャミができるし、この季節を憂鬱に感じている方も多いのではないのでしょうか?実はこの花粉症の時期になるとわんちゃんにも意外なところに症状が出てきます。

はじめに

春の花粉症シーズンになりました。自分は花粉症を持っているので、急に目がかゆくなったり、くしゃみや目が出たり、喉に違和感があったり、敏感に花粉症の症状が出てきます。一方、仕事で外来診療していると、この春の時期になると急にわんちゃんや皮膚での診察が増えます。これはわんちゃんのお耳がかゆい耳外炎です。この外耳炎は、アレルギー、寄生虫、異物、脂漏症、腫瘍、免疫異常や解剖学的な要因など様々な原因によって生じ、更にそこに細菌や真菌の感染などが複雑に関与し悪化していきます。この中で診察をしていて症例数が多いと感じるのはアレルギーによる外耳炎です。

診断

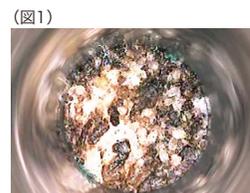
外耳炎の診断は特殊な器具は必要ありません。耳に炎症があることを肉目的に、あるいは耳鏡、ビデオオトスコープなどにより確認するだけです。しかし、耳に炎症を確認するだけではなく、

- 右耳なのか左耳なのか?あるいは両方の耳に症状があるか?
- いつから外耳炎か?経過は急性か?慢性か?
- 過去にも同様に外耳炎の症状があるのか?

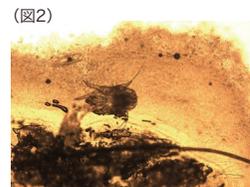
治療

● 耳に限局した炎症なのか?その他の皮膚に炎症の所見があるのか?
● 過去に外耳炎の治療しているか?その治療への反応は?
などを問診や身体検査で確認することが重要になります。外耳炎とは耳の炎症ですが、耳だけに意識を集中して全体を見ないと、背景にある問題などの思わぬ落とし穴にはまったりするなど、結局、診断や治療の遠回りとなるケースもあるため、常に全体への注意が大切です。

外耳炎の多くは残念ながらアレルギー性の外耳炎です。しかし、外耳炎には異物であったり寄生虫など特殊な要因で発生しているケースも散見されます。このように外耳炎の原因が、この(図1)や(図2)に示すように耳ダニ寄生である場合、寄生虫を駆除すると同時に外耳道における炎症をコントロールできるとわりと短期間に完治を狙うことができます。



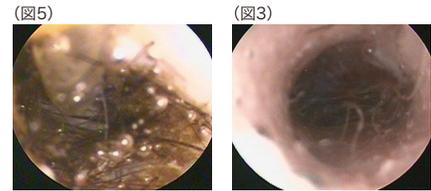
(図1) 耳ダニ 耳鏡による観察所見 白い小さな物体すべて耳ダニの重度寄生。



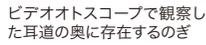
(図2) 顕微鏡で観察した耳ダニ

具体的な治療としては、耳ダニを殺す薬剤を耳道内に点耳する、あるいはスポット剤として投与することで、耳ダニを駆除します。また同時に存在する炎症についてはステロイドなどを用いて、そして二次感染の細菌や真菌などを適切な薬剤を用いてコントロールします。

寄生虫だけではなく、異物による外耳炎も異物を除去することができれば治療としてはシンプルに完治することができます。具体的な例として、植物ののぎが耳道内に刺さっていた画像(図3と図4)です。これも耳道内からののぎを除去し、周囲の炎症に対する治療を実施することにより速やかに治癒することができました。また意外に思われるかもしれませんが、耳道内に被毛(図5と図6)が存在するだけでも炎症が生じる場合があります。特に、鼓膜周囲に被毛が存在すると鼓膜を刺激したり、



(図3) ビデオオトスコープで観察した耳道の奥に存在するのぎ



(図4) ビデオオトスコープと鉗子を用いて摘出したのぎ



(図5) ビデオオトスコープと鉗子を用いて摘出した被毛と耳垢



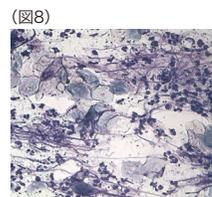
(図6) ビデオオトスコープと鉗子を用いて摘出した被毛と耳垢

奥に耳垢が溜まりその部分に外耳炎が生じるなど炎症の悪循環に陥ることがあります。このような場合、鼓膜周囲の耳垢と被毛をオトスコープを用いて除去することが治療のために必要です。

そして最も多いと言われているアレルギー性の外耳炎の場合、治療戦略はさまざまに必要となります。なぜならアレルギーは炎症が持続する可能性があるためです。先ほども述べましたが、わんちゃんの外耳炎の多くはアレルギー性の外耳炎です。背景のアレルギーとそれに伴って真菌(図7)や細菌(図8)の増殖などの悪化要因が絡んだ複雑な病態を呈しております。



(図7) 真菌(マラセチア)



(図8) 細菌(球菌および好中球の貪食像)

アレルギー性外耳炎の具体的な治療法は、まず耳道洗浄をして、もし被毛などが存在している場合は除去を行います。これにより悪化させる要因である細菌や真菌などの数が減ることになります。また、耳道洗浄を行なって耳垢を減少させることも大切です。そして炎症をコントロールするため、ステロイド剤を含んだ外用薬を用いたり、全身に投与を行います。耳道の細菌や真菌に対しては、洗浄だけでなく、それ

予後

それに効果のある外用薬を局所に用いたり、全身に投与していきます。実際には、これらの治療戦略を様々な組み合わせながらコントロールを目指していくのです。

先ほど治療の部分で述べたように外耳炎の原因が異物、あるいは寄生虫によるものでは適切に原因を診断し治療を行うことにより短期間で治癒し、良好です。しかし、この季節問題となってくるものは多くはアレルギー性の外耳炎だということです。この場合、予後は実際に様々なものとなります。アレルギー性外耳炎の多くは治療の継続が必要となりますが、治療は炎症の状況に合わせて徐々に調節します。このため状態が落ち着いている場合、洗浄だけでかなり長期間にコントロール可能な症例も存在しております。つまり、アレルギー性外耳炎であっても必ずしも複雑な治療が長期間にわたって必要となるわけではありません。

終わりに

この時期になってくるとかなり耳をかゆがるわんちゃんが増えてきます。外耳炎の多くはアレルギー疾患ではありますが、ときにはシンプルな寄生虫や異物による炎症も存在するため、耳を気にしている場合、早めに病院に受診し、悪化しないようにしていただくことが大切です。

〈お問い合わせ〉

京都中央動物病院

電話

075-821-1020

京都市下京区柿本町582-3

9:00~20:00